

第 139 回医療ビジネス研究会のご案内

2017 年の世界の海外旅行者数(到着ベース)は前年比 7%増の 13 億 2300 万人と、伸び率は 2010 年以降最大となり 8 年連続のプラス成長(UNWTO:国連世界観光機関)。日本及び日本人に限定しても在外邦人は増加の一途で 135 万人超(2017 年外務省)となり、出国日本人も 1,788 万人超と増加(2017 年法務省)。近年、話題となります訪日外国人は 2,869 万人超、在日外国人も 256 万人超(2017 年法務省)で引続き右肩上がりです。

国を越えた人々の自由な往来は平和な世界の進展であり喜ばしい事ではありますが、当事者となりますと懸念事項が少なくありません。その一つが、健康管理と病気の際の対応ではないでしょうか。気候、環境のみならず生活習慣や食文化の違いから、日本では当たり前に入手できたものが手に入らず、結果として体調を狂わす事も少なくないようです。

病や不調の際にお世話になるかかりつけ医も外国となると気軽には行難い状況が有ります。言葉の問題はもとより、生活習慣の違いや費用の問題等、自国とのギャップを(特に皆保険制度を享受している日本人にとっては)大きく感じるといわれています。医療事業再生機構におきましても、2018 年より外国人向けメディカルサービス促進プロジェクトに着手し、言葉の問題、お金(保険)の問題、マナーの問題等、外国の方が日本で医療サービスを受ける際の様々なギャップを埋めるべく活動しております。

今回は日本の民間医療機関としては最初にベトナムに進出(2104 年 3 月)された、こひつじ会の一戸氏をお招きし、同氏が陣頭指揮されてきた進出の準備から現在に至るまでのお話を伺います。現在のベトナムは社会主義国ではありますが、ODA(政府開発援助:Official Development Assistance)は日本が最大の支援国で、現在(2017 年)のベトナムは日本人が訪れる国では第 7 位、在留邦人数は第 16 位と、国別の訪問人数、在留人数の序列は共に上昇中です。

医療分野での海外進出ニーズは嘗て医療機器や病院建設などが一般的でしたが、近年では日本の医療システムの進出にも期待が寄せられています。日本国内におきましても、医師不足等々の諸課題が後押しし、チーム医療の推進が謳われて久しいものの現実は然に非ず。日本の医療は一般化、見える化が出来ていない(システム化されていない)などの課題があり、マネジメント不在の医療実態が日本の医療の可能性をも阻害しているともいわれています。

今回の国を越えた事業参入の KFS(重要成功要因:Key Factor for Success)は医療分野の事例ではありますが、他の事業分野(特にサービス産業)におきましても、多くの事を示唆するものであります。医療分野の方はもとより、海外進出を検討される方には是非ともお聞き頂きたくご案内申し上げます。

2019 年 3 月

特定非営利活動法人 医療事業再生機構

記

- テーマ:「既存事業の新規市場での挑戦」=ベトナムにおける日本の医療機関の事例から=
- 講師:一戸謙一 氏 さくらクリニック (Japan Vietnam Medical Connection Co., Ltd.)事務長・国際営業主幹
- 開催日時:2019 年 3 月 25 日(月曜日)18:30~20:30

以上

※ 医療ビジネス研究会への参加には受講票が必要です。参加を希望される方は弊会 HP よりお申込みください。